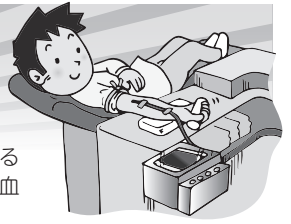


1月は「はたちの献血」キャンペーン月間です。 「その一歩が、だれかの一生になる。はたちの献血」



【献血とは】

献血は無償で血液を提供するボランティアです。献血によりいただいた血液から、輸血用血液製剤や血漿分画製剤が作られ、病気やけがの患者さんの治療に役立っています。血液は人工的に作ることができず、また、長い期間保存することもできません。

そのため、医療機関に安定的に血液製剤を届けるためには、多くの方の献血への協力が必要です。

【献血へのご協力を毎日呼びかけているのには、理由があります。】

多くの患者さんの病気やけがの治療に使われている血液製剤は、献血でご提供いただいた血液からつくられています。血液は人工的に作ることができず、長い間保存することもできません。また、献血者の健康を守るため、1人あたりの年間の献血回数や献血量には上限があります。そのため、安定的に血液製剤を患者さんに届けるためには、日々多くの方の協力が必要なのです。

【若者のみなさん、献血にご協力を！】

我が国では、少子高齢化の影響により、主に輸血を必要とする高齢者層が増加し、若い世代が減少しています。

少子高齢化は献血事業にも影響を与えています。10代～30代の若年層の献血者数はこの10年間で約31%も減少しており、このまま減少が進んでいくと、血液の安定供給に支障をきたす恐れがあります。

今後も患者さんに血液を安定的に届けるためには、今まで以上に若い世代の献血へのご理解とご協力が不可欠なのです。

献血は身近にできる大きな社会貢献。この機会に献血に行ってみませんか。

【献血血液から作られる「くすり」】

献血で集められた血液は、どのように患者さんのもに届くのでしょうか。交通事故などで怪我をした時の輸血に使われるイメージがあると思いますが、それは全体のわずかで、ほとんどはがんなどの病気の治療に使われています。

献血血液は、血液型やウイルスなどの有無を調べた後、赤血球や血小板、血漿の成分ごとに、目的に合わせた血液製剤になります。実は、輸血に使用される輸血用血液製剤は献血血液のおよそ半分、残りの半分は血漿分画製剤という医薬品を造るために使用されています。

【献血はどこまでできる？】

献血バスや献血ルームで献血をすることができます。

厚生労働省：

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_36290.html

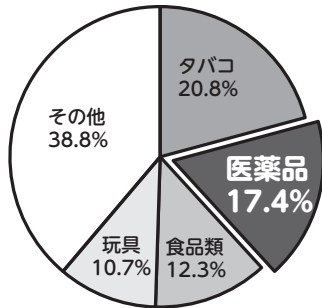
町では、皆様に安心してお薬を使用してもらうために、昨年度から四日市薬剤師会と協力して様々なお薬情報をお伝えしています。今月号は子どもに焦点を当てた薬の誤嚥防止についてお伝えしていきます。

子どもによる薬の誤飲を防ぐためにできること



四日市薬剤師会
薬剤師 橋本世李

小児の誤飲報告件数

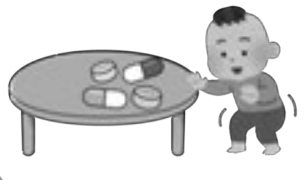


子どもによる誤飲事故は毎年発生し薬の誤飲も多く報告されています。特に睡眠薬、血圧の薬、糖尿病の薬などは誤飲した際のリスクが高いです。子どもの誤飲を防ぐための方法を3つご紹介します。

もし、誤飲してしまったら・・・

誤飲した薬の名前と量を確認して、お子様のかかりつけ薬剤師か、以下の相談機関へ電話してください。
小児緊急電話相談 #8000
中毒110番 大阪中毒110番：072-727-2499
つくば中毒110番：029-852-9999

手の届く所に置かない



特に6か月～1歳半頃は、身近にあるものを口に入れる行動がよく見られます。

薬のアルミシートごと噛んで口を切る、塗り薬のチューブを噛んで誤飲することがあります。手の届く場所に薬を放置しないようにしましょう。

1歳～2歳頃からは周囲への関心が高まり、大人の姿を観察して真似をしたくなる時期です。薬を飲む姿も真似してしまうことがあります。足場を使って高い所にも手が届くようになるので、子どもが見ていない所で薬を飲むようにしましょう。

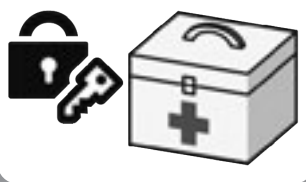
薬の開発が進み、甘くておいしいシロップ剤や粉薬、甘い匂いがする錠剤が増えています。お菓子と間違えて多量に誤飲するケースも増加しています。

鍵のかかる場所で保管することが一番の予防になります。

薬を飲む姿を見せない



鍵をかけて保管する



（一社）四日市薬剤師会 薬剤師による「お薬相談（電話・対面）」 毎月第3土曜日 14時～16時 TEL 350-3925

四日市市本町9-8 本町プラザ5階

○病院で処方してもらった薬・市販薬・健康食品・機能性食品・サプリメント・漢方薬等について